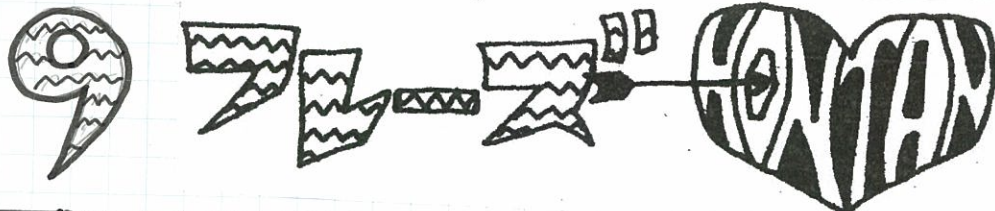


HONTAN

図書館ボランティア「本探」が 第46号
 旬の図書館情報をお知らせします

そろそろ新学期にも慣れた頃ですね。
 空き時間に読書はいかが！ 2014年
 5月号



今回のテーマは
 色々な意味で?!
 「ぐっときた親から子への
 一言」
 です!

伊え上の
 「私は生きようが
 死のうかがまわれない。
 でも、こまでしたあとで
 私が死んだら、ヤスオは一生だめだ。」
 『天国までの百マイル』 浅田次郎 913.6/A

かなづちの
 「お母ちゃんな...
 笑い方、忘れてしまった」
 笑ってほしいと
 言いた息子への切ない一言。
 『かあちゃん』 重松清 913.6/S

スエーデンの
 「雅春、ちっちゃと逃げろ」
 指名手配された息子に
 向けて全国放送で言っちゃいます。
 『ゴールデンランバー』 伊坂幸太郎 913.6/I

味季の
 「大丈夫、お母さん。
 どうにかするから」
 命の危機に、
 立たされた母の、娘に対する思い
 と覚悟があらわれたセリフです。
 『ゼロ、ハチ、ゼロ、ナニ』 辻村深月 913.6/T

七味の
 「恨んでもええ。
 (ほいでも、
 われはおまえを育てる)」
 母親をセクした息子に
 告げた決意の言葉。
 『とんび』 重松清 913.6/S

のずみの
 「信夫、
 虎雄君の指は何本ある？」
 士族を特別視していた信夫に
 放った、父親の一言。
 『塩狩峠』 三浦綾子 913.6/M

鶏の
 「いつの間にそんなに
 大人の声になったの
 かしら」
 死と隣り合わせの時の母に言われ、
 息子は何も言えなかった。
 『ぼたの群れ 第四話 瞬間』 向山貴彦 913.6/M-4

きいの
 「鳥や虫が
 いっぱい来る
 庭にしような」
 虫好きの息子の元気を
 取り戻すため父は奮闘する。
 『99のなみだ 月』 野坂律子ほか 913.68/K-[6]

あんこの
 「お前は、そのままでいい」
 父に言われたら、
 信じるしかない。自分に自信がつく
 言葉です。
 『ラプソディ・イン・ラブ』 小路幸也 913.6/S

『手紙』
 東野圭吾
 913.6/H

今月の1冊

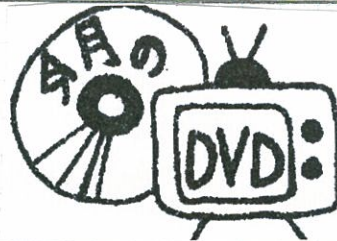
強盗殺人の罪で服役中の兄、剛志。弟、直貴のもとには
 獄中から月に一度、手紙が届く。しかし、進学、恋愛、就職と
 直貴が幸せをつかもうとするたびに、「強盗殺人犯の弟」という運命
 が立ちはだかる苛酷な現実。人の絆とは何か。いつか罪は償えるの
 だろうか。犯罪被害者の家族を真正面から描き切る。
 先月に続き今月も東野圭吾 作品を紹介してしまうことになり
 ますが(気になる方は図書館HPのHONTANページへ)、これは他の
 東野作品とはだいぶ毛色の違うものでした。
 「差別」はいけない事だと分かっていても、無意識のうちにして
 しまっているのを改めて考えさせられました。気に知れる人間とやっ
 と出会ったと感じても、やっと普通の生活が送れると思っても犯罪者
 の身内である、というレッテルがついて回り、自分の思うように生きられ
 ない弟の姿に胸が痛くなります。読み終わったあと、「正義ってこまで
 が正義なんだろう」「悪を批判することは正義なのか」その真実を
 語る本。一気に読みしてしまうほど魅力ある作品です。
 <伊え上>



HONTAN
雑誌の書評を
紹介

HO 5月号

『HO』は北海道の
様々な情報を紹介する
総合情報紙です。
5月号は札幌の円山を



『オペラ座の怪人 The Phantom of the Opera』 778.72/0

特集しています。人気住宅であるこの地域の歴史が
写真と共に振り返っています。

また、一般住宅のような外観の飲食店や、探し
にくい知る人ぞ知る隠れ家的なお店も紹介されて
いました。円山はアットホームなお店が多く、
癒される空間がたくさんあります。手作業の職人
や古本屋など昔ながらの魅力的なお店もある
ので、円山周辺に行ったら、是非散策して
みてはいかがでしょうか？

<七味>

不朽の名作ミュージカルを
豪華に映画化したサスペ
ンサラゴストーリー。オペラ座の地下に棲む「オペラ座の怪人」
と歌姫クリスティーヌの悲哀を描く。舞台は、
1870年代パリ、華やかな舞合でにぎわうオペラ座。
オペラ「ハンニバル」の公演の練習中、いくつかの
奇妙な事件が起きる。そんな中、コーラス・ガール
だったクリスティーヌは主演に選ばれる。本番に
向けて練習していきながらでもまた事件が起こり…。
この映画の歌唱シーンはほぼすべて役者が歌っていて
迫力があります。私は特に、マスカレードのシーンが好きです。
音楽をじっくり堪能できるミュージカル映画です。

<麻子>



はじめの一冊と称して紹介する割に、ちと詳しくない分野ではあり
ますが、紹介したいと感じた本があります。それが、『現代アート、超入門!』
この本はアートを感じるままで受け入れてもよいと述べています。
私たちは現代アートが得体の知れないもので手の届かない感嘆生の
為すものと捉えがちですが、実はそんなに限定的なものではないのです。
作品には何らかの意味があります。その背景にあるものを矢口ること
自体は難解なものではありません。問題は、知識をつけた上
でその作品が語りかけてくることをどう感じるかなのです。そう
考えると、作品の主題は私たちにあるようにも感じられます。

今回紹介する本はアートの本質ではなく、アートの見方を提示する
ものです。しかし、その見方は方法論などではなく、各自の自由な
知見に委ねられたものです。現代アートの複雑怪奇ぶり
を逆説的に捉えれば、それはむしろ日常的なものでも
あります。芸術に関心が無いと思ってもお洒落を
したり、好きなアニメや漫画に浸ったりすること、カルチャ
チックなすべてのことに芸術の残滓が在ると僕は思っ
ています。ですから、みなさんも一度ならず何度も、
芸術の世界に浸ってみてください。

<びわこ>

『現代アート、超入門!』

藤田令伊

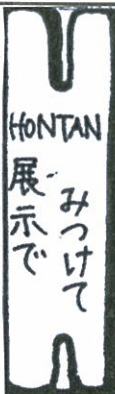
702.07/F

(2F文庫新書 / 集英社新書)

学生展示

今月のテーマは、
『子どもが登場する本』特集

です。5月5日はこどもの日ということで、
小学生や中学生が活躍する小説を紹介
します。部活に熱中したり、事件に巻き
込まれたり、恋をしたり…。
さうりと読める短編集もあるので、忙しい
方にもおすすめです！幼さが残る、小さ
たくましい子どもたちの活躍をぜひ
ご覧ください！



DVD 展示
ようやく季節も春らしく
なってきましたね。新学期
が始まって1か月近く経ち、
授業にも慣れてきたころでしょうか。空き時間や
授業おわりに、DVDでもみて一息つきませんか？
今回のテーマは「春の陽射しと共に見たいDVD」です。
DVDをみてほっこりしたり、眼気を吹き飛ばしたり、
気分をあげたりしませんか？友だちと一緒に楽しむ
こともできますよ！皆さんにぴったりのものばかり
なので、ぜひ手に取ってみてください！

編集後記

あつという間に、5月になりましたね。北海道はやつと暖かくなり、桜もようやく
開花してくれるようです。私事ですが、今年の春は憧れのお花見とやうに行きたい
と思っています。人生で一度も行ったことがないため、年々お花見に対する、夢・希望
が膨らんでおります。「一人で行けばいいじゃないですか」とか、そんなこと言わなくて
下さい。(笑)さて、話が急に変わりますが、図書館ボランティアHONTANはまだまだ新
メンバーを募集していますよ！本が好きな方なら学年問わず歓迎しますよ。詳しくは図書館
HP または図書館内のポスターをご覧ください。

<あんこ>